

社内のデジタル検版システムとして InSiteを導入し、校正事故を大幅に削減。 さらに検版時間も劇的に短縮。

写真製版から企画制作へと業務を変革

株式会社シーフォースは、東京千代田区に自社ビルを構える気鋭の企画制作会社である。設立は1979年で、当初は写真製版を主業務とする典型的な製版会社としてスタートした。1998年にはデザイン部門を新設して業務範囲を拡大。その後、写真製版から制作中心へと軸足を徐々にシフトし、現在では企画制作からデザイン、プリプレスまで、プリントメディアからWeb・デジタルメディアまでをワンストップで手がける企画制作集団へと見事な変貌を遂げている。シーフォースのCは、Clients、Communication、Creation、Colorの頭文字。この4つの「C」をキーワードに、柔軟な発想力をもつ「Force = 力、勢い」で最先端の顧客ニーズに応えている。

デジタル検版の必要性に迫られて

InSiteを導入

同社がコダックのワークフローシステム Kodak InSiteと Kodak Prinergyを導入したのは2009年3月のこと。その理由について同社の代表取締役社長である奥山邦之氏は次のように語っている。

「昨年、社内で人的ミスによる校正事故が多発して、お客様に大きなご迷惑をおかけしました。なかでも修正指示のない箇所ミスが発生したのは100% 当社の責任でした。修正箇所は意識してチェックするが、修正のない箇所はチェック漏れやミスが発生しやすい。こうしたトラブルを回



修正前、修正後、差分の3画面表示を高く評価してInSiteを導入

避するために、デジタル検版システムの導入による業務改善が急務でした」

単に損害を補償するだけでなく、ワークフローを改善して事故のない万全な制作体制を顧客に示すことが同社には迫られていたのである。昨年9月から機種検討をはじめ、最終的に奥山社長が決断したのがInSiteだった。すでに他社製システムでプリプレスのワークフローを構築していた同社だが、「昨年のdrupaでコダック製品の先進性を強く感じたのがきっかけで、InSiteとPrinergyをセットで導入し、ワークフロー全体の切り替えを決めました」と奥山社長は笑いながら語る。その笑顔には「自らの決断に間違いはなかった」という確かな自信があふれていた。

InSiteでスピーディで正確な 校正・検版作業を実現

InSiteを選んだ理由について、制作管理部課長の新庄晃氏は次のように語っている。

「修正前と修正後、そして両方を比較した差分画面の3つを並べて表示できるのはInSiteだけでした。InSiteなら間違いのない検版作業が短時間で行えると確信しました」

実際、InSiteの差分表示画面では変更箇所がハイライト表示されるため、担当者はその部分だけを修正後の画面でチェックすれば済む。またテキストだけでなく、写真や色を修正した箇所も一目で分かるため、モレのないチェックが可能になる。必要に応じて網の%も表示できるため、色



代表取締役社長 奥山 邦之氏



制作管理部課長 新庄 晃氏



制作部 IPグループリーダー 酒井 潤氏



本社3FのIP(イメージプロセッシング)部門

調の確認も容易に行える。こうした検版作業の正確さは事故件数の低減にもつながった。

「導入して半年になりますが、この間、社内事故はわずか数件でした」と奥山社長はその成果に驚いている。事故によるペナルティはなくなり、顧客の信用も確実に取り戻している。

InSite は作業時間の短縮にもつながった。これまで32ページの通販カタログの検版に2時間近くかかっていた。しかし、InSite を導入してからはわずか数分で終わるようになった。会社ではこの通販カタログだけでも毎月20種類以上のバージョンを制作しているの、時間短縮の効果には驚くべきものがある。

制作ワークフローに革命をもたらした InSite & Prinerger

同社の制作業務はデザイン、DTP、IPの3グループに大別される。IPとはイメージプロセッシングの略で、写真製版を含むプリプレス業務全般を担当する。他社製システムからコダックへとワークフローを切り替えたことで、同社の制作ワークフローも改革された。これまでDTP部門がネイティブの校了データを作成し、IP部門がそのデータをチェックし、必要に応じて面付けなどを行って印刷用の最終PDFを作成していた。しかしInSite & Prinerger ワークフローでは、DTPのスタッフがPDF(PDF/X-1aフォーマット)まで作成してInSiteにアップロードする。バックグラウンドではPrinergerがこのPDFを印刷用に自動変換しているため、IP部門では最終チェックと面付け・出力のみに専念できるようになった。一見、DTP部門の負担が増えたように見えるが、

検版時間の削減効果などもありトータルの制作時間は確実に短縮した。さらに新庄課長はスタッフの意識改革にも貢献したと指摘する。

「DTPとIPの間にあった壁もなくなり、制作業務全体の作業効率が大幅に向上しました。革命といってもいいでしょう。DTPのスタッフも印刷データに関する知識が増え、技術レベルの底上げにもつながっています」

PrinergerのRBA機能で自動化を積極的に推進

Prinergerの操作性・作業性を高く評価するのは制作部IPグループの酒井潤氏だ。

「Prinergerは直感的で使いやすく、短期間で覚えることができました。またジョブのテンプレートを利用すれば、誰でも簡単に作業できます」

酒井氏はPrinergerのRBA(ルールベースオートメーション)機能を積極的に活用して、ワークフローの自動化を推進している。サイズによって出力先のプリンタを切り替えたり、InSiteで校了ボタンを押すと自動的に面付けして大判プリンタで出力するなど、出力の自動化はもちろん、営業部門からの要望にもRBA機能で応えている。

「お客様にもメール送信が可能な低解像度PDFが欲しいという営業マンの要望が数多くありました。これまではその都度、営業マンがDTP部門に依頼していたのですが、これがDTPスタッフの大きな負担になっていたのです」

このため、InSiteに制作データをアップロードすると、Prinergerが自動的に印刷用PDFと同時に低解像度PDFも作成するようになった。これにより、営業マンはInSiteから低解像度PDFをダ



業界誌、書籍、カタログ、チラシなど幅広いプリントメディアをカバー

ウンロードして、いつでも顧客に提供できるようになった。DTP部門も「負担が軽減した」と喜んでいいる。

社内のデジタル検版システムとしてInSiteを導入した会社だが、InSite & Prinergerワークフローによって同社の業務全体が活性化されたともいえる。

「校正事故が少なくなったこと。ペナルティがなくなったことも重要ですが、それ以上に社員全員が安心して仕事できるようになったのが何よりのメリットでした」

こう語る奥山社長だが、「次はお客様にオンライン校正システムとしてInSiteを提案していきたい」とその眼はすでに将来を見据えていた。



株式会社シーフォース

代表取締役社長：奥山 邦之

従業員数：42名

本社所在地：〒101-0052

東京都千代田区神田小川町3丁目9番地4号 Cforce Bld.

TEL：03-3293-3090

FAX：03-3293-3099

www.cforce.co.jp

コダック株式会社 グラフィック コミュニケーション事業部

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-9 TEL.03-5577-1200/1250
大阪：06-6105-9670 名古屋：052-746-1290 福岡：092-707-0180
仙台：022-290-2070 札幌：011-590-5070 金沢：076-200-7159

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com
http://graphics.kodak.com

Kodak

It's time for you AND Kodak